

會 告

日本鐵鋼協會第十一回講演大會

講演者募集

来る昭和八年十月中旬名古屋市に於て本會第十一回(秋季)講演大會を催しますから此の好機會に御出演御希望の方は下記要項御含みの上奮て御申込下さい。

開會期日日程

十月十五日(日曜日) 研究部會	十月十八日(水曜日)	} 見 學
十月十六日(月曜日)	十月十九日(木曜日)	
十月十七日(火曜祭日)		

尙ほ詳細なるプログラムは決定次第追て掲載致します。

昭和八年五月

日本鐵鋼協會

應募講演題目及講演者氏名

- | | |
|---------------|---------------------------|
| 1. 電氣鐵鈹の製作に就て | 川崎造船所製鈹工場製鋼課技師 工學士 西山彌太郎君 |
| " | 薄鈹課技師 工學士 中島道文君 |

要 項

- 講演申込期日は昭和八年七月三十一日限りとし、(締切は勵行致します)
同期日迄に演題と其講演大要(約800字以内)*を必ず本會宛御送付の事。
本會にては其大要集を編纂し出席申込者へ出來得る限り早く配布します。
 - 七月三十一日までに論文の全文を御送り下されば論文全部の前刷を作り出席者に配布致します。此場合と雖も講演大要は是非とも御送附を願ひます。
 - 講演の詳細は本會々誌「鐵と鋼」に掲載致しますから當日の御講演は25分以内に願ひます、尙ほ實際に要する時間を御申込と同時に御記入下さい。
- ※ 講演大要は從來2,500字以内でしたが日本工學會發行の「工學論文要録」へ其儘寄稿する便宜上今回から日本工學會の希望に合致せしめる爲め約800字以内に變更しましたから御諒承願ひます。

鐵 と 鋼 第十九年 特輯號臨時増刊

日本鐵鋼協會第六回研究部會

第二回製鋼部會記事(平爐蓄熱室に關す問題)

以上は單行書の如く全誌に其記事を取纏めたもので斯業に従事するものの最も參考となる良書ですが會員に配布の残り相當部數持つて居りますから御希望の方へ下記定價で分譲致します至急御申込ありたし。

定 價 金七十五錢(郵稅共)(振替貯金口座東京一九三番)

八幡製鐵所製日本鐵鋼標準試料頒布

鐵鋼の標準試料が現代分析に従事する者に取りて貴重なる事は多言を要せざる所にして既に英米獨に於ても之を製作して汎く國內に頒布し之に依て分析の誤差を是正し且分析方法の可否を判定するの用に供せらる。然るに本邦に於ては未だ其企なかりし爲高價なる標準試料を海外よりの輸入に待てり。

八幡製鐵所は茲に見る所あり多大の犠牲を拂ひて之を作製し廣く官民分析所の便に供せんことを期し目下外國品に比し半額に足らざる廉價を以て之を頒布せらるることとなり特に其權威を保持せんが爲め鐵鋼學術並に技術の振興機關たる本會に對し其一手頒布權を分與せられたり。今其標準試料の特色を擧ぐれば

1. 最も周到なる注意と煩瑣なる手数を拂ひて完全なる平均試料を採取し且つ試料粒の均整を期したること
2. 分析方法は日本標準分析規格を採用し權威ある官民分析所 11ヶ所に依頼し各所別並に其平均分析を表示したる證明書を添附せること
其一例を示せば右表の如し
3. 試料壘は之を密封して酸化變質を防止し其外裝紙筒には平均分析を記入せること（其外觀は寫眞に示す如し）
目下作製せられたる試料及價格は次の6種なるも今後他の試料をも順次作製せらるる豫定なり。

日本鐵鋼標準試料 分析成績

第四號 炭素鋼 (C=0.6% 鹽基性平爐鋼)

分析成分	炭素 C %	珪素 Si %	マンガン Mn %	磷 P %	硫黃 S %	銅 Cu %	ニッケル Ni %
標準値	0.61	0.099	0.73	0.023	0.023	0.12	0.028
分析者							
1	0.605	0.093	0.720	0.023	0.023	0.118	0.026
2	0.609	0.093	0.730	0.021	0.022	0.123	0.030
3	0.607	0.099	0.728	0.024	0.023	0.117	0.030
4	0.605	0.101	0.731	0.023	0.023	0.117	0.029
5	0.608	0.102	0.731	0.022	0.021	0.117	0.025
6	0.603	0.102	0.732	0.024	0.022	0.117	0.028
7	0.606	0.102	0.730	0.023	0.023	0.117	0.032
8	0.614	0.100	0.726	0.023	0.022	0.118	0.029
9	0.611	0.099	0.722	0.022	0.024	0.112	0.025
10	0.600	0.105	0.736	0.022	0.023	0.127	0.031
11	0.603	0.093	0.710	0.022	0.024	0.113	0.027
平均値	0.606	0.099	0.727	0.023	0.023	0.118	0.028

分析方法 日本標準規格及鋼分析方法

日本標準規格 第55號 鐵及鋼炭素分析方法 (昭和四年五月十三日 商工省告示第29號)

日本標準規格 第56號 鐵及鋼珪素分析方法 (昭和四年五月十三日 商工省告示第29號)

日本標準規格 第86號 鐵及鋼「マンガン」分析方法 (昭和六年十月六日 商工省告示第47號)

日本標準規格 第87號 鐵及鋼磷分析方法 (昭和六年十月六日 商工省告示第47號)

(硫黃、銅及「ニッケル」分析方法規格ハ追ツテ官報ニテ告示セラル、答ナリ)

分析者 (五十員)

- 1 大阪工業試験所
- 2 海軍技術研究所
- 3 商工省 釧路局
- 4 製鐵所
- 5 鐵道大臣官房研究所
- 6 東京工業試験所
- 7 東京帝國大學工學部 (工業分析化學研究室)
- 8 東京帝國大學工學部 (冶金化學研究室)
- 9 三井鐵山株式會社目黒試驗所
- 10 財団法人理化學研究所
- 11 陸軍科學研究所

昭和七年二月 製鐵所

品名	一壘の容量	價格	備考
第一號 C=0.1%	150瓦	8'00	代金の外に送料を要す。
第二號 C=0.2	150"	8'00	
第三號 C=0.4	150"	8'00	
第四號 C=0.6	150"	8'00	
第五號 C=0.8	150"	8'00	
第六號鼠銑鐵 C=2.8	150"	10'00	



本會は常に相當の在庫品を準備してあるを以て各所の注文に應じ速に發送し得る用意有之候間何卒御注文あらんことを希望仕候